
編集委員会

委員長	野村 卓生		
副委員長	片岡 弘明（兼編集事務局長）		
委員	浅田 史成	岩城 大介	木村 和樹
	河野 健一	藤田 直人	松藤 勝太
	村松 憲	森 優太	渡部 潤一
編集事務局	長井 梓苑	福住 武陽	

編集後記

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野の約87万人の科学者を内外に代表する機関です。日本学術会議では、各団体との間で緊密な連携・協力関係を持つことを目的として、日本学術会議協力学術研究団体（以下、「協力学術研究団体」）を設立しています。日本糖尿病理学療法学会は、この協力学術研究団体への加盟を目指しています。学術協力研究団体へ申請する要件の一つとして、「学術研究（論文等）を掲載する機関誌を年1回継続して発行（電子発行を含む。）していること」があります。日本糖尿病理学療法学会の発行により、協力学術研究団体への申請に向けて一歩前進したことになります。

この度、多くの先生方のご協力により、5本の英語論文と6本の日本語論文をもって、記念すべき第1巻を発刊することができ、J-stageにも収載することができました。Hirano論文は、糖尿病性腎臓病患者における身体活動と疲労性の関連を検討した原著論文です。Ishida論文は、透析患者における歩数と身体活動の関係性を検討した原著論文です。Suzuki論文は、糖尿病性末梢神経障害患者の歩行の安定性に下腿筋同時収縮が与える影響を検討した原著論文です。Mizoguchi論文は、糖尿病教育入院における地図を用いた運動指導の運動への動機づけへの影響と効果を検討した原著論文です。Kataoka論文は、日本糖尿病理学療法学会が主導する大規模臨床研究のプロトコルを示すプロトコル論文です。木村論文は、健常若年成人における膝関節角度が足関節背屈の自動的関節可動域に及ぼす影響を検討した原著論文です。高石論文は、OLETFラットの精巣上体脂肪と肝臓における炎症性サイトカイン発現の経時的変化を検討した原著論文です。石黒論文は、小型端末を用いた運動支援による過体重の2型糖尿病患者における活動量の変化を検討した原著論文です。古谷論文は、2型糖尿病患者における脈波伝播速度に影響する因子を検討した原著論文です。真田論文は、糖尿病患者への新しい運動療法の試みとして、HIITを用いたセミパーソナルトレーニングジムを紹介した資料です。自身も、理学療法管理学からみる訪問リハビリテーションの課題について、合併症としての糖尿病をどのように考慮すべきかを論じた総説論文を投稿させて頂きました。

先が見通せない状況にあり、苦行の日々が続いておりますが、先生方においては、新型コロナウイルスに負けることなく、臨床・研究・教育活動にまい進されていると拝察します。このような苦難の中でも飛躍を目指したいと思う此の中です。皆様の活動成果の発表に日本糖尿病理学療法学会の機関誌をご活用して頂ければ幸いです。

野村卓生